

会 議 録

◇事務局ー子ども家庭部子ども若者課

電話：03(4566)2471

附属機関又は 会議体の名称		第31期青少年問題協議会 第4回専門委員会
事務局（担当課）		子ども家庭部子ども若者課
開催日時		令和3年9月7日（火）午後1時30分～午後3時00分
開催場所		Zoomによるオンライン会議 （区役所内参加者：本庁舎5階 510会議室）
議 題		1 開 会 2 議 事 （1）「豊島区子ども・若者総合計画」の令和2年度実施状況調査について （2）「豊島区子ども・若者総合計画」年間報告書の作成について 3 閉 会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	野村武司、南野奈津子、林大介、五十井八恵子、栗林知絵子、佐野佐知子
	事 務 局	子ども若者課管理・計画係長、子ども若者課職員
会議資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 「豊島区子ども・若者総合計画」 令和2年度実施状況調査概要 ・ 2 「豊島区子ども・若者総合計画」 令和2年度実施状況調査票 ・ 3 「豊島区子ども・若者総合計画」 年間報告書の作成について ・ 4 「豊島区子ども・若者総合計画」 年間報告書（素案）

審 議 経 過

【開 会】

・事務局より資料確認

【協議事項】

委員長 それでは、議事の1つ目「豊島区子ども・若者総合計画」令和2年度実施状況調査について」につきまして、事務局よりご説明願います。

事務局 【資料1、2説明】

委員長 計画には必ず目標値があつて、それに対してどういうふうに達成できているかというのが評価です。評価するにあたっては目標値の性質の問題があるだろうというのが前回の話で、大きく分けて、定性的なもの、定量的なもの、数値を維持していくべきもの、数値が上がっていくべきもの、中には下降型というのがありましたが、それ以外にもあつたとすれば「その他」と位置付けてその中に下降型を入れればよいと思いましたが、その他がなければ下降型が良いと思います。整理しただけでも、いろいろなものを一覧にして見られ、評価をしたことによりかなり近づいていると思います。

これは最終的には年度末の報告書の巻末に資料として添付されることになると思いますが、重点事業だけは太い線で囲むとか色を変えるなどして、わかりやすくしたほうが良いと思います。

形が出来上がってくると、目標値に照らして実施したのを見たうえで評価が適切であるのかを見ていくことになります。それは主管課評価が適切であるのかということになるかと思えます。主管課からまだ返ってきていないというのは、（※実施状況調査票）黄色のセルのところ、これは間違いなどもあるのですか？

事務局 こちらと主管課とのズレがあると認識しております。

委員長 黄色のところは要検討ということですか。

事務局 たとえば1ページ目の一番下、これは子ども若者課の業務ですが、子どもの参加推進事業ということで立教大学等と連携していますが、令和2年度の実績がコロナ禍で中止となっております。I欄の取組内容もコロナのために中止となっております。すると、単に未実施であれば主管課評価はEかなと思います。ですが一方で、未実施でも目標に沿った取組として、たとえばコロナの後にどういうことができるのかを次年度に向けて相手方や関係者と協議をしたとか、目標達成に向けた動きをしているならば、未実施でもCなのかなと思うところがあります。未実施でも、単なる未実施の場合と今後に向けた動きをした場合とで、CとDに分かれてもいいと思うあたりで揺れています。そういうところを中心に黄色にしています。また、数値上昇型と思われるものが数値維持継続型と記入されている等、いま確認中ですが次回

以降に向けて精査しているところです。

委員長 説明がないとわからないものは、書いていただければと思います。

事務局 本来は黄色の部分を一覧にして調査中である理由等を出せばよかったです
が、今回間に合わず、わかる範囲でお答えいたします。

委員長 ちなみに、立教大学と共同して子どもを対象に子どもの権利に関する条例の認知
度の向上を図るということで、具体的には何をやる予定でしたか。

事務局 毎年立教大学が独自で行っているとしま子ども大学というものがあり、そこに豊
島区が共催として関わっているのですが、その事業の中の一つに区長とティータイムという、区長とお子さん達がテーブルを囲み区政や周りで起こっている出来事を
語り合う場があり、子どもから区への意見表明の場として機能しています。去年は
それがコロナで中止になってしまったということです。

委員長 単純に考えると、35人とは少なすぎるのではありませんか。

事務局 としま子ども大学は立教大学が人数枠を設けてティータイム以外にもいろいろ
なことをやっているのですが、応募は数100名単位です。きちんとした事業として
成り立たせるためにはある程度人数を絞って実施しないと難しいという立教大学
の意向です。

委員長 いずれにせよ検証のやり方としては、目標値に対してちゃんと事業が実施できた
のかということと、そもそも目標値が適正であるのかという2つのことをやらない
といけないという観点でこの※実施状況調査票を基に検討していくことになる
と思います。

委員 ひとつひとつやっていく時間はないかもしれませんが、3ページ目15番のプレー
パークに関して、ある程度数値を報告もすべてしていますが、ここも黄色になって
いる理由を教えてくださいたいです。

事務局 H欄の令和2年度実績で、①の数字だけを見ると目標値を満たしていないと考
えることもできるので、所管課の聴き取り調査をしたほうが良いということで黄色に
なっています。

事務局 コロナの影響があったので、目標を達成しないと直ちに評価Cになるという考
えではないのですが、中止になった理由や中止になったときにどういう取組をしたの
かを総合的に見る必要があって、今黄色がついているのは、単純に数字を見ただけ
だと令和2年度の目標を達成していないという数字的な疑義があるだけで、取組を
精査すればBやAが妥当だということも出てきます。

委員 昨年は学校の休校と同時に、休校でも子どもたちの居場所はやってほしいという

こちらの要望は聞き入れてもらえず中止になり、1～2 か月閉鎖にした時期がありました。そうすると当然参加人数は少なくなるのは口頭ですぐにわかることだと思います。こういうことはなるべくその場でクリアにしていればと思います。

委員長 目標値と数字に違和感があるものについては、理由を書き留めていただければと思います。今の例のようにやむを得ないものだったか否かはともかくとして、コロナ禍の対応として利用中止にした時期があっても、それを差し引いてこの人数であれば目標値を達成したということができれば理由はついているので、目標と評価とにズレがある場合には理由を聴取していただいて、それを書き込み欄があるといいと思います。

事務局 I 欄に入れるといいかと思っていますが、そこでも読み取れない疑義がある場合に黄色をつけています。

委員長 I 欄を、「内容と評価の根拠」など、タイトルを変えると良いと思います。一見して齟齬があれば理由を書くというふうにすると良いです。

委員 先程の例でいうと、プレーパークはどのくらいの期間開けられなかったのですか？

委員 4月5月です。

委員 2か月間ですね。目標値が32,200/12回なら平均2,600人ですが（←※調査票では10回）30,208人/10回ならば、平均は3,000人ですよね。実際に開いていた時期の人数で見るとAになるのかもしれないと思いました。

たとえば8ページ目45番H欄の相談件数のところも、年間なのか月別なのかによりますが、数が減っている部分でBとAがあるならばそういう事情を考慮しても良いのかなと思いました。コロナで実施できなかったけれども、1か月あたりを見れると良いのかもしれない。

委員長 相談事業は実施しなかったのですか。

事務局 対面では多少制限があったと思いますが、メールや電話ではやっていたので、影響があった事業もあればむしろメールや電話でかなり相談が来たというケースもあります。

委員 どうしても黄色いところ、評価がCやDだったところを見てしまっていますが、割合ごとに全部出してくれたので非常にわかりやすかったです。他に目に留まったところでいうと、30ページ目175番の「障害がある子ども・若者への支援」は、事業内容が費用の支給ということで、実績と取組が回数になっていて、支給という事業内容と連動しないので、回数ではなく件数に再考したほうが良いと思いました。回というのは、周知した回数という意味でしょうか。

事務局 そもそもE欄の記入がないので主管課に確認が必要でここも黄色にすべきだった
と思えました。何回支給したかということかと思えます。ひとりの方でも、複数回
支給すれば回数が積み上がります。回数がいいのか、人数か。また、回数でなくて
件数という表現が良いのか。引き続き精査します。

委員長 支給自体はゼロだったが、ホームページで周知はしていましたという意味でしょ
うか。ここは、I欄を見ると、0回の話なのか、0回に留まったけれどもこういうこ
とをやったという記述なのか、補うといいと思えます。
31 ページ目 180 番は、なぜBなのでしょう。

事務局 これは令和6年度目標値が480園なのに令和2年度目標値が500園なので、数値
上昇型で良いかどうかということで黄色にしています。

委員長 「アドバイスをを行った」という記述はよくわかりません。

事務局 確認いたします。

委員 34 ページ目 199 番は、「対象少年がいなかったことにより未実施となった」とい
う理由でD評価ということですか。やったけれどもうまくいなくてD評価ならば
わかりませんが、実際に対象者がいなかったのでしょうか。

事務局 保護司会とのやり取りで、保護観察少年に対する就労支援ということで、いろい
ろメニューがあって、そのなかで区役所を選ぶ人がいなかったという意味だと思
います。

区としては、こういう制度がありますから対象者がいたらきちんと周知をしてく
ださいという保護司会とのやり取りはしているので、結果として人が来なかったと
いうことを捉えてD評価なのか。けれど実施はしているのでC評価でもB評価でも
よいのではないのかというところで黄色にしています。区が能動的に動かなかっ
たから未実施なのか、門戸を開いていたけれど対象者がいなかったとか選択して
もらえなかったという意味での未実施なのか、未実施でも何かをしていたのか、
同じ未実施でも意味合いが違うので、単純な未実施をD評価とすることが変なの
かなという気もしています。次年度以降の課題でもあると思えます。

委員 そういうことがわかると、選びたいと思う内容ではなかったかもしれないので、
選んでもらうことに繋がるためのどういう組立がいいのか一緒に考える機会にな
るので、特に子ども若者課所管の事業についてはBになった理由とかを共有して
いただくと、来年度少しでも良くなるための意見を市民からいただけるといいの
ではないかと思いました。

委員長 事業内容の書き方には問題はありませんか。

事務局 計画で出でしまっている案件なので、調査で補うとすると、目標のE欄と取組の
I欄をしっかりと記載して補うという形になるのかなと思いました。

委員長 事業としてはやっているけれど、採用実績がなかったということですか。そのような記載が必要です。引き続き調整をお願いいたします。

委員長 それでは、議事の2つ目「豊島区子ども・若者総合計画」年間報告書の作成についてにつきまして、事務局よりご説明願います。

事務局 【資料3、4説明】

委員長 ありがとうございます。このA3の表には、(※資料4素案3ページ)施策の体系の目標(※同、I～VI)の記述はありますか。

事務局 いいえ、目標の項目がないので、目標1から6がどれに該当するか工夫しないといけません。

委員長 目標単位で良いと思います。重点事業のある取り組みの方向性ごとでもよいかもしれません。1ページ1事業になっていますが、事業を詰めてもらって、各取り組みの方向性ごとに最後に総括する。重点事業がある場合はそこに触れつつ総括をする、計画事業についても関連性のあるものは触れても良い、という感じでどうでしょうか。取り組みの方向性ごと、特に重点事業についての総括的意見の原案は事務局で作成できますか。

事務局 今回の段階での主管課評価の揺れを整えて、主管課評価ベースでCとかDの評価がっているものについて、改善をしていくべきといった、たたき台としては作れません。

委員長 報告書として収まりがよいのは、取り組みの方向性ごとに、重点事業が多いもの、少ないものがありますが、まずは重点事業について表形式のものを入れてもらい、取り組みの方向性ごとに16の総括を試みる。その原案については、特に重点事業についてはイメージがわかりやすいように事務局で整え、それに対して専門委員会で手を加えていくというのはどうでしょうか。A3の表についても、取り組みの方向性ごとにページを区切ってもらえば、目標も入れられます。

事務局 そういった形で良ければ、たたき台を10月の専門委員会までに、11月の全体協議会に出すまでもう一度検討できるレベルに持って行ければと思います。

委員長 毎年の年間スケジュールですが、前回ご指摘にあったように、その年の検証結果と課題が次の年の予算に反映できるということが重要ということでした。どういう予算項目を問題にするかは9月に提示することになっているようなので、9月の区議会が始まるまでにこちらから提案できれば一番良いということです。全体のものについて詳細に検討するのは難しいので、重点項目について9月の定例会までにまとめるということのをこれからのルーティンにしたかどうかということです。

前年度の各所管課の評価を新年度から始めてもらおうと、7月には出てきそうです。

今回はこちらからオーダーをしたので予定がずれ込みましたが、今年やったものが一つのスタンダードになれば、来年度以降は7月に所管課のものは全てきちんと出てくるはずです。そして7月から9月の頭にかけて、いまやっているような作業をします。ただし、全体を俯瞰することは難しいので、重点事業について報告書の中間報告を定例会に報告する。中間報告といっても重点事業については最終報告と考えてもらいます。9月の定例会が終わって3月の定例会では、その他計画事業についても含めます。年度末に新たなことをやった感じはしなくなりますが、いずれにしても、重点項目だけだと毎年変わらなくなるので、3月の定例会が終わった後に、翌年度、重点項目はもちろんのこと、重点項目以外の問題にすることがあれば専門部会としては提案することがあってもいいかなと思います。

事務局 厳しいですが、9月に作りきるようにしたいです。

委員長 以上が来年度以降のスケジュールとなります。今始めようとしていることは、本来は7～8月にかけてやらなくてはいけないということになります。イメージは共有できましたでしょうか。

事務局 事務局は大丈夫です。

事務局 専門委員会は10月と11月に開催できればと思っています。

委員 私は今回のような計画の見直しをするのは初めてですが、今まで知っているのは、総合計画と後期見直しの冊子ですが、これから作るのは今までにないものですか。

委員長 そうです。今までにない報告書です。

委員 職員の方は、9月末までに、いま黄色になっている箇所を取る作業は大変かと思いますが、これがあることによって、私たちも、重点項目で今何が足りないのか考える材料になります。頑張ってください。

ご質問になりますが、「ひとり親家庭支援センター」はどちらに設置されているのでしょうか。また、「児童虐待ネットワーク」事業の事業内容等が間違っているのではないのでしょうか。

事務局 ひとり親家庭支援センターについては、子育て支援課の窓口にございます。また、調査票の記載内容に関しましては、訂正したものをお送りいたします。

委員長 こういうものができて、それなりに充実感をもってくると、豊島区は子ども施策の計画的推進の先進自治体になると思います。引き続きよろしく願いいたします。

事務局 承知いたしました。

委員長 それでは、以上をもちまして、第31期青少年問題協議会第4回専門委員会を終了いたします。ありがとうございました。